

# 現象描写文としての IL Y A 名詞句+関係節

津田洋子  
(京都大学大学院)

フランス語の話し言葉には、IL Y A 名詞句+関係節によって表される以下のような3つの文タイプが存在する。

- (1) Papa ! Y a Maman qui pleure ! (Un secret : 映画コーパス)
- (2) Y' a Jean qu'a téléphoné. (Lambrecht 1988)
- (3) (Charles の両親の店がめずらしく閉まっている : 説明を求められて)  
Il y a Charles qui se marie. (Rothenberg 1971)

(1)は話し手の目の前で発生した出来事を表すのに対し、(2)は発生した出来事がすでに知識化した情報を伝える文である。そのため(1)は場所や時間を表す表現を伴いにくいのに対し、(2)には場所や時間を表す表現を自由に付け加えることができる。また、知覚にもとづかない(3)の文タイプは、ある状況において説明するという文脈で用いられることが多い。

これまでの研究においては、(1)と(2)が同じ出来事文として扱われたり(Lambrecht 1988)、(1)と(3)の区別が曖昧にされている(Rothenberg 1971)。

本発表においては、これまであまり区別されることのなかったこれら3つの文が異なる文タイプであることを明らかにする。